

学長業績評価 自己評価書

所信表明に掲げた項目への取り組み実績等を記載してください。

No.	項目	自己評価
1	教育	奈良県や世界で活躍する人材を育成するため、入学から卒前・卒後を通じた一貫した教育体制の整備を行いました。 1. 優秀で多様な人材の入学を促進: 多様な人材確保のため、前期入試の選抜方法を共通テスト・小論文試験を重視した方法に変更し、推薦、前期、後期で異なる選抜方法を行うこととしました。 2. 高度の医学・看護学を修得し、信頼される医療人を育成する: 国内外の有名研究機関にリサーチクラークシップの学生派遣を継続して実施しています。リサクラ後も研究に従事した本学卒業生が、2つの学会の優秀論文賞を受賞するなど成果が上がっています。 また、臨床実習の充実のため、コロナ禍で中断していたハワイ医学教育プログラム(HMEP)を再開し、ハワイ(米国)式のClerkship(学生参加型実習)を体験させました。 3. 看護学研究科博士後期課程の開設: 看護学領域における高度な能力を有する人材を育成するため、2024年に奈良県初の看護学研究科博士後期課程を開設しました。 4. アントレプレナーシップの醸成: 将来において「挑戦する人、挑戦し続ける人」を育成するため、新たに城南信用金庫理事長の川本恭治氏、世界的デザイナーのコシノジュンコ氏にMBT特命教授に就任いただき、合わせて6名のMBT特命教授・講師による特別講義を実施しています。 5. 育成した優秀な医師、看護師が奈良県に軸足を置きながら世界でも活躍: 高い臨床研修マッチング率、県内就職率を維持し、奈良県に多くの優秀な医師・看護師が残って活躍していただいています。 6. AIへの対応: 急速に進歩するAIやデータサイエンスに適応した人材を輩出するため、「AIシステム医学融合イノベーションセンター」を設置する予定です。
2	研究	1. 科研費・競争的研究資金獲得支援 申請書の添削やURAによる支援、セミナーなど獲得支援策の実施の結果、科研費の獲得額が増加し、この10年間で単科医科大学のトップとの差が大幅に縮まってきました。 2. 研究者の起業支援: 支援を継続した結果、奈良医大発ベンチャー企業が、2024年度に更に2社設立され、8社となりました。 3. 研究支援体制の強化: 「先端医学研究支援機構」において、URA、専門技術職員、コーディネーターなどの専門人材を段階的に増員し、支援体制を強化しました。 4. 研究基盤の整備: 総合研究棟グランドデザイン策定委員会での検討などを踏まえ、研究設備の強化のため高額機器購入予算を倍増するとともに、研究環境の安全性と効率性の向上のため、Web審査体制の整備や、化学物質管理システムの導入、動物福祉に配慮したIVCラックの導入などを実施しました。

2	研究	5. 基礎医学者の養成: 2024年2月に「基礎研究医養成基本方針」を策定し、将来本学が全国的に基礎医学の分野において指導的な役割を果たす人材を輩出することができるよう、基礎医学者の育成に注力することを決定し、支援策として「基礎研究医養成修学資金」制度を創設しました。 6. オートファジー・抗老化研究センターの設立: 「オートファジー」の仕組みを老化や種々の加齢性疾患の治療で実用化するため、基礎・臨床講座との分野横断的な研究体制を構築し、日本の老化研究の永続的な核となることを目的として、オートファジー・抗老化研究センターを2024年4月に設置しました。 7. 「一般社団法人 奈良先端医工科学連携機構」の設立: 新しい技術開発やイノベーション創出のための医学と工学の協働「医工連携」をより推進するため、奈良先端科学技術大学院大学とともに「奈良先端医工科学連携機構」を設立し、2025年3月に文部科学大臣より「大学等連携推進法人」に認定されました。
3	診療	1. 働き方改革への対応: 医師労働時間短縮計画の修正などの手続きを行い、特定労務管理対象機関(B・C-1水準)の指定を受けました。また、長時間労働医師に対する面接指導、全診療科における時間外勤務体制の整理、ホスピタルパラメディックや夜間看護補助の導入などの負担軽減措置も実施しました。 2. 高度生殖医療センターの設置: 県内を中心に不妊で苦しむ人々に最新の生殖医療を県内クリニックと連携して提供する「高度生殖医療センター」を2023年10月に設置しました。 3. 睡眠医療・呼吸管理センターの設置: 睡眠関連疾患を診療科横断・他職種連携で診療を進め、また検査体制を充実させるため「睡眠医療・呼吸管理センター」を2025年9月に設置しました。 4. 附属病院における組織の整備: 「医療の質・安全管理センター」、「がん相談支援センター」、「肝疾患相談センター」、「リウマチセンター」をそれぞれ改組・設置しました。 5. 地域医療への貢献: 2023年5月の第5類への移行後も県の要請に応じ、2023年度末まで新型コロナ患者受入病床を確保するとともに、今後のパンデミック等に対応するため、「新型インフルエンザ等感染症、指定感染症又は新感染症に係る医療を提供する体制の確保に必要な措置に関する協定」「奈良県における災害支援ナースの派遣に関する協定」「(災害・新興感染症対応)を奈良県と2024年4月に締結しました。
4	総合	MBT構想の進展: 奈良医大MBT研究所とMBTコンソーシアムが以下の共同事業を行いました。 1. MBTコンソーシアム: 医科の単科大学に医療と関係のない企業も含めて150社以上が集まる世界的にも稀な組織に成長しました。 2. 難病克服キャンペーン: キャンペーンに対し9団体からの後援名義使用許可を得ました。また協賛企業・団体は42組織となり、広報活動を活発化しました。難病克服支援「MBTみんなで守るいのちの映画祭」を開催しました。(第3回 2024年1月 よみうり大手町ホール ゲスト 吉永小百合氏、第4回 2025年1月 日経ホール ゲスト 渡辺謙氏、第5回 2026年1月 日経ホール ゲスト 田中裕子氏を予定) 3. 「よい仕事おこしフェア実行委員会」(事務局:城南信用金庫)との連携協定: 全国の信用金庫と連携し、医学の知識を基に社会貢献活動を展開しました。(「2023よい仕事おこしフェア」、「2024よい仕事おこしフェア」へ出展) 4. スタートアップ・エコシステム共創プログラムの採択: 大学等発スタートアップの創出に向けた取組を支援する「スタートアップ・エコシステム共創プログラム」に採択され、本学は京都大学を主幹機関とする「関西スタートアップアカデミア・コアリション(KSAC)」のメンバーとして参加しました。支援の一環として、本学では2課題がGAPファンドに採択されました。

4	総合	5. 大阪・関西万博夢洲本会場出展: 大阪ヘルスケアパビリオンリボーン広場、大阪ヘルスケアパビリオンリボーンチャレンジ、関西パビリオン京都ブースへの出展を行いました。 6. 包括連携の取組 Nakanoshima Gross、日本郵便(株)近畿支社、(株)モンベル、UPDATE EARTH のスクールパートナーと連携協定などを締結し、様々な取組を実施しています。
5	その他 (法人運営 または 学長選考基 準に示され た資質の発 揮度等につ いて)	1. 未来への飛躍基金: 基金創設後10年間で総額 約14.2億円(2025年3月末現在)の寄附を獲得しました。多額の寄附による、紺綬褒章の授与者・授与予定者が9名となりました。若手研究者への英語論文校正費用の助成制度を充実するとともに、海外留学助成制度、APC助成制度を創設しました。また、講義室の机・椅子の更新、研究用備品の整備など教育・研究環境の充実にも活用しました。 2. 積極的な情報発信、学内広報の活性化: 記者会見、新聞・雑誌・テレビ等マスコミ取材、テレビ出演、記事掲載など積極的にマスメディアを活用し、情報発信を行いました。(大学全体の期間中の報道等件数:181件、うち理事長・学長が対象となった報道等件数:35件) 法人の取組(MBT、MBT映画祭)について、公式SNS(Facebook、X(旧Twitter)、YouTube)を開設し、情報発信を充実しました。 学報における理事長・学長からのメッセージ、奈良医大キャンパスだより、MBTニュースレター、MBTジャーナルなどの発行など学内広報の活性化に努めました。 3. 畝傍山キャンパスの開校: 2024年11月に工事が竣工し、2025年2月に知事をはじめとした県関係者向けの内覧会を実施しました。2025年4月1日に開校し、4月7日に初めての入学式を開催しました。 4. 新A棟整備: 新A棟整備について、知事と法人役員との意見交換会を実施し、2024年11月に整備規模、事業費、整備内容などについて、県と合意しました。新駅開業に合わせて令和13年度中の竣工を目指します。 5. 開学80周年記念事業: 2025年5月24日に畝傍山キャンパスにおいて、開学80周年及び畝傍山キャンパスオープン記念式典を開催しました。式典には、国、県、県内自治体、関係大学、医療機関、企業や、本学の関係者など約210名の参加がありました。 6. 学歌の制定: 開学80周年を契機に、医学科・看護学科の理念を象徴する学歌を正式に制定しました。
6	総合評価	本学の運営について、奈良県の評価委員会(委員長:垣内喜代三 奈良先端大名誉教授)から高い評価をいただきました。 奈良医大を「発展する医科大学」「面倒見の良い医科大学」「進取の気性に富む医科大学」「奈良を基盤にして全国展開する医科大学」「他学にはない力をもつ特別な医科大学」にすることを目指して努力して参りました。その結果一定の成果が得られたのではないかと感じております。今後100周年に向かって飛躍すべく、「挑戦する医科大学、挑戦する人を育む医科大学として歩み続け、社会の変化や改革を恐れず、常に理想を掲げて実現を目指す。」ことによって、全国屈指の医科大学になると確信しています。

令和7年9月1日

奈良県立医科大学 学長

細井裕司

